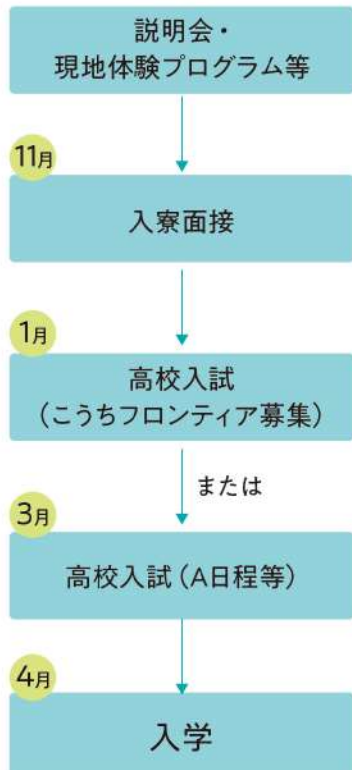


嶺北高校入学までの流れ



※入寮面接と高校入試は別々に実施します。入寮面接を受け、入寮許可となった方には、順次高校入試出願に向けたご案内を行います。高校入試は1月と3月に実施され、いずれかに合格すれば入学となります。詳細は下記へお問い合わせください。

説明会・イベント情報・個別相談はこちら



嶺北高校魅力化プロジェクト最新情報はこちら



問い合わせ先

高校について

高知県立
嶺北高等学校

〒781-3601 高知県長岡郡本山町本山727

☎0887-76-2074 📧320108@ken.pref.kochi.lg.jp

寮舎について

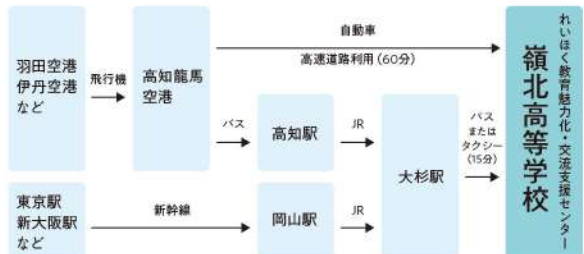
一般社団法人 れいほく未来創造協議会
れいほく教育魅力化・交流支援センター

〒781-3601 高知県長岡郡本山町本山821-1

☎0887-72-9601 📧ryugaku@reihokufc.com

アクセス

- 飛行機利用
羽田空港・伊丹空港など→高知龍馬空港→高知駅→JR土讃線→大杉駅→バスまたはタクシー(約15分)→嶺北高校
- 新幹線・JR利用
東京駅・新大阪駅など→岡山駅→JR土讃線→大杉駅→バスまたはタクシー(約15分)→嶺北高校
- 車での利用
高知龍馬空港から高速道路利用で約60分



近隣マップ・生活環境

豊かな自然環境がありながら、周辺には病院、コンビニ、ドラッグストアなど、生活に必要な施設があります。学校・寮・塾が近く、日々の通学や学習にも取り組みやすい環境です。



高知県立 嶺北高等学校

れいほく教育魅力化・交流支援センター

公設寮 「嶺北研修交流学舎」

公設塾 「燈心嶺」



REIHOKU
High School

2コース4プログラム。 興味から、未来をデザインする。

嶺北高校は、普通科高校でありながら、大学進学・就職に向けた学びはもちろんのこと、「農業」や「商業」といった専門科目、地域と密着した探究的な学びまで、自分の興味や関心に合わせた学びを「選べる」学校です。



考えるって、
案外おもしろい。



やってみた経験が、
次の選択につながる。



教室を出ると、
問いが動き出す。



ICTで、
町の外ともつながる。



迷いながら選ぶから、
自分の道になる。



地域と関わると、
学びが深まる。

学びのステップ

1年次

学びの土台をつくり、興味を広げる。教科の基礎を身につけながら、地域や社会に触れ、自分の関心を見つけていきます。



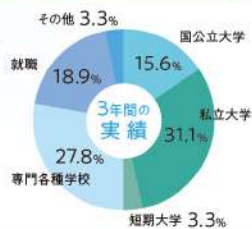
2年~3年次

探究を深め、自分の道を選ぶ。コース・プログラムを選択し、探究活動や実践を通して進路につながる学びを深めます。



卒業後の進路

3年間の先に、それぞれの次の一歩へ。大学進学、専門学校、就職、地域での挑戦など、自分らしい次の一歩へ進みます。



少人数制授業

少人数だからこそ、一人ひとりが考え、対話しながら深く学びます。



ICT活用

遠隔授業環境を整え、受講希望者が一人の授業も受講します。



地域とつながる学び

嶺北探究でのフィールドワークや地域の方との対話を通じて、地域の中で問いを深めます。



2つのキャリアコース

進学キャリアコース

学問を深め、探究を広げながら、進路実現に向かう。

文系

人文・社会と地域探究

地域や社会を多角的に学び、課題解決の力を伸ばします。



理系

理数・科学探究

数や科学の視点で自然や社会を捉え、探究を深めます。



実践キャリアコース

地域で実践し、社会と関わりながら、進路実現に向かう。

農業系

農業・自然・地域資源

農業や自然を活かし、地域の魅力づくりに取り組みます。



商業系

商業・企画・情報発信

商品開発や販売、情報発信を通して、地域に価値を届けます。



嶺北探究

総合的な探究の時間

嶺北高校では、総合的な探究の時間を「嶺北探究」と題し、「わたし」の興味関心を起点に、地域や社会を見つめ、自分事として向き合うことを通して、自分なりの「価値創造」を目指します。



在校生の声

進学キャリアコース 高石 瀬璃奈 3A 文系



私は大学進学を見据え、本校の進学キャリアコース文系を選択しました。少人数制ならではの環境のもと、教員のきめ細やかな指導を受けながら、自らの目標に応じて主体的に学びを深めることができます。また、公営塾「燈心嶺」を活用することで、授業で扱いきれない内容まで発展的に学ぶことができ、理解を一層高めています。さらに、自然に囲まれた環境での学校行事や日常生活を通して、学力だけでなく人間的にも大きく成長できる点が本校の魅力です。ここ嶺北で、ともに充実した学びを築いていきたいと思います。

在校生の声

実践キャリアコース 尾崎 信哉 3A 商業系



私は、金融系の仕事につく夢を叶えるために実践キャリアコース商業系を選択しました。商業系では、簿記検定のための知識や情報処理など商業に関する専門的な知識を学び、資格取得に挑戦することができます。私は、先輩から商業系の話聞き、経済・商業系の大学に進学したいと思い始めました。少人数なので、先生との距離が近くわからないことを聞けたり、友達とも相談できるから楽しく勉強に集中することができます。将来の目標がある人も、まだ見つからない人も、新しいことに挑戦したいなら商業系へ。

知るを やってみるへ。

地域に出て、手を動かし、人に聞き、自分で考える。
嶺北の学びは、「やってみる」経験を通して、より広く、
より深く、あなただけのものになります。



体験・実践項目

農業インターン

食や自然など、人々の暮らしの基盤を支える現場から学びます。



林業講座

森林率約9割の嶺北だからその学びから、地域資源の価値を考えます。



AxC・RYN部

地域の素材や魅力を活かし、商品づくりや販売、情報発信に挑戦します。



地域連携プロジェクト

地域の人や団体と関わりながら、嶺北の「リアル」に向き合います



在校生の声



自然と向き合い、自分も育つ 右城 愛結 3A 農業系

私は中学生の時に野菜がどのように育てられているのかを詳しく知りたい、学びたいと思
い実践キャリアコースの農業系を選びました。野菜の栽培は自然を相手にしなければなら
ず、天候に左右されるので、自分達が合わせる必要があります。自分達が育てた野菜を
売ったりして地域の方たちに喜んでもらえる事や、美味しいと言ってもらったらやりがい
を感じます。夏に林業講座があり、チェーンソーや草刈り機を扱う事が出来ます。他にも
多くの経験が出来るので農業に興味がある人は、ぜひ農業系を選択してみてください。



1人ひとりの 学びが生まれる。

公設塾「燈心嶺」

Education is not the filling of a pail, but the lighting of a fire.
教育とは桶に水を満たすことではなく、心に火を燈すこと。



主体的な学び

主体的な学びを実現するため
に、それぞれが「わたしの思い」
を認識し、育むことを大切に
しています。

進路・キャリア相談

大学進学、専門学校、就職など、
それぞれの進路に向けて、面談
や小論文・面接練習を行います。

教科書にない 学びとの出会い

多様な分野のプロフェッショナル
や地域で活動する大人、外部
講師を招いたキャリアイベン
ト・ワークショップを実施します。

“やってみたい” を形にする

探究プロジェクトや地域での
チャレンジ。そんな「やってみ
たい」に向き合います。

Information

講師は文系理系を問わず、
すべての教科の学びをサ
ポートします。全校生徒が無
料で利用できます。開講は
平日の放課後～21時が基本。
定期試験期間や長期休暇中
は、生徒のニーズに合わせて
開講時間を変更します。

卒業生の声

安心して学べるサポート体制

岡林 主磨 2026年度卒業生 高知工科大学情報学群



嶺北高校の魅力は全校生徒が少ない分、生徒や先生方と深く関わることができ、一丸となって行事や
日々の授業に取り組むことができます。
受験期には先生方との距離が近かったおかげで、より自分に合った受験対策をしていただけた。
自分でも知らなかった強みや弱点を教えていただき、効果的に勉強に励むことができたと感じています。
また、嶺北高校には生徒であれば無料で利用できる公設塾「燈心嶺」があります。自習スペースもあり、
スタッフのみなさんが勉強などのサポートをしてくださるので、勉強を頑張りたい人にはとても良い環境
だと思います。私もたくさんお世話になりました。

仲間が、れいほくを おもしろくする。

嶺北高校には、地域の4つの町村から通う生徒と、全国各地から入学する生徒がいます。育ってきた場所も、考え方も、得意なことも違う。だからこそ、出会いが刺激になり、自分の当たり前を見直すきっかけになります。



地域を越えて、仲間と出会う。

全国各地から集まる仲間たちは、それぞれ違う経験や価値観を持っています。地元で育った生徒にとっても、地域外から来た生徒にとっても、その違いは新しい発見になります。

全国から集まる
仲間との出会いが、
学びの世界を広げます。



違うからこそ、学びが広がる。

地域での暮らし、活動、行事、そして日々の会話。さまざまな場面で、多様な仲間との関わりが、自分の視野を広げてくれます。



公設寮「嶺北研修交流学舎」

意思が集い、対話が生まれ、
暮らしが学びになる場所。

嶺北研修交流学舎は、全国各地から集まった生徒が共同生活を送る公設寮です。一緒に暮らして初めて気づく性格や価値観の違いの中で、「暮らし」について話し合い、ともに考え、寮をつくっていきます。多様なWillを持った一人ひとりの寮生が、対話し、考え、より良い「なにか」を生み出していく、そのプロセスが寮を創っていきます。

寮について

寮費：月額50,000円 朝食・夕食付（日曜のみ除く）
昼食は学校給食（月額約6,000円/任意）



寮のイベント例

- てづくり秋祭り
- 流しそうめん
- クリスマス会
- れいほくく〜りバスツアー

嶺親（みねおや）の会

嶺北地域の住民有志による「嶺親の会」は、寮生の暮らしや「やってみよう」に寄り添った体験とその機会を提供しています。伝統的な行事や農作業など、「地域ならではの」経験が寮生活を彩ります。嶺親さんに教わりながら植えたお米、一緒に歩いた佃田のあぜ道、聞き取れなかった高知のことば。いつか懐かしと思うのは、そんな嶺親さんとの思い出がもしもあれば。

「おはよう、元気？」
声をかけてくれる大人がいる、
それが地域で生きるということ。



地域外生の声



嶺北で見つけた、挑戦する楽しさ

本橋 佐和 3B

私は神奈川県から「地域みらい留学」の制度を利用して本校に入学しました。入学の決め手は、美しい自然と地域の温かさ、そして2年次のコース選択により自分の興味に応じて学べる環境があることです。入学当初は不安もありましたが、友人や先生方、寮生活を支えてくださる「嶺親さん」やスタッフさん、地域の方々を支えられ充実した日々を送っています。少数のため、先生が生徒を気にかけてくださり、生徒同士も刺激し合いながら成長できていると感じています。

私は、生徒会活動と地域の課題解決などに取り組む「嶺北探究」に力を入れており、仲間と切磋琢磨したり、誰かの役に立つやりがいを見つながら活動しています。また、寮生活は楽しいことだけではなく、困難もありますが、その経験は今後必ず力になると思います。やってみようという姿勢で、積極的に挑戦してみよう！嶺北に興味のある方は見学に来て、話を聞いて雰囲気を感じてみてはいかがでしょうか。

わたしを 表現する場所がある。

部活動、生徒会活動、学校行事。嶺北高校には、仲間と目標に向かい、自分の役割を引き受けて動く機会があります。日々の小さな挑戦が、自分の得意や関心を見つけるきっかけになります。



部活動

目標に向かって努力すること。仲間と悩み、支え合うこと。放課後の活動もまた、自分を成長させる大切な学びです。



カヌー部



RYN部



バレーボール部 (男・女)



吹奏楽部

その他の部活動

- 写真部 ●野球部 ●放送同好会 ●バドミントン部 ●剣道部 ●卓球部

生徒会活動

合言葉は、「全員が生徒会!」社会の変化や多様化する価値観に合わせて、校則や行事予定の見直し、学校行事の企画など、新しい学校のあり方を提案・実現しています。国際交流イベントや地域のボランティア活動を企画することもあり、学校の中にとどまらず、地域や世界とつながりながら活動できることも、生徒会活動の大きな魅力です。



学校行事

仲間と準備し、表現し、振り返る時間が、学校生活を濃いものにしていきます。



嶺高祭



体育祭



修学旅行



ファイナルレポート

セカイも 学び場になる。



地域で育てた関心や関心は、世界と出会うことで、また違った形に広がっていきます。海外へ踏み出すこと。嶺北に来た世界の人たちと対話すること。そのどちらも、自分たちの地域や暮らしを新しい目で見つめ直し、これからの生き方を考えるきっかけになります。

海外短期研修

令和7年度は、シンガポール、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアなどへの海外研修に10名が参加しました。語学だけでなく、異なる文化や価値観に触れ、嶺北で育てた関心や関心を、世界の中で見つめ直す機会になります。研修費用の90%、最大50万円まで補助する制度を活用できます。



「
その先へ。」の

国際交流

セーシェル共和国からの訪問団受入、デンマークやオーストラリアからの学生団受入など、嶺北にしながら世界と出会う機会も広がっています。海外から来た人に嶺北を伝え、対話する経験は、自分たちの地域や暮らしを新しい目で見つめ直す学びにもなります。



卒業生の声

挑戦を続けた先に、次の夢が見えた。

近藤 楓真 2026年度卒業生 鹿屋体育大学 体育学部 スポーツ総合課程



私は中学校から続けてきたカヌーを高校でも続けたいと思い、嶺北高校に進学しました。高校3年間、カヌーに全力で取り組みました。最初は「続けたい」という思いだけでしたが、チームで「インターハイ出場・入賞」という目標を掲げました。仲間と励まし合いながら努力を続け、県大会でペアとフォアの両方でインターハイ出場を決め、200m競技でペア4位、フォア3位という成績を収めることができました。

この経験を通して、私は鹿屋体育大学への挑戦を決めました。面接や小論文の練習、そしてカヌーの練習で毎日忙しく大変でしたが、先生方や家族の支えがあったからこそ最後まで頑張れました。これから嶺北高校に入学する皆さんも、ぜひ全力で目標に向かって頑張ってください。「嶺北高校に来て良かった」と思える3年間になることを願っています。

支えてくれる人がいたから、目標に近づけた。

小笠原 咲姫 2026年度卒業生 高知大学教育学部



私は地元である嶺北で勉強したいという思いから嶺北高校へ進学しました。教員になりたいという夢を持っていた私は2年生からは進学キャリアコースを選択し学習していました。

私の考える嶺北高校の1番の魅力は先生との距離が近いということだと思います。授業で分からないことがあったらすぐに聞きに行ける環境や、進路や学校生活の悩みに親身に聞き、サポートしてくれる先生がいます。嶺北高校には留学支援制度や生徒会活動など自分が成長できる場所がたくさんあります。特に私は2年間の生徒会活動によって大きく成長できたように思います。

嶺北高校で過ごした3年間は宝物です。これから嶺北高校への進学を考えている皆さんには嶺北高校の環境を活かしてやりたいことに向けて頑張ってください。